

学校部活動の地域連携および地域クラブ活動への地域展開に向けた方針 ～中学生のスポーツ・文化芸術活動の充実に向けて～

はじめに

令和4年12月に、スポーツ庁及び文化庁は、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、学校部活動の地域連携および新たな地域クラブ活動を整備する必要があることを示した。

また、滋賀県は、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境を構築されるよう、市町および各学校の取組等の状況の把握に努め、課題解決に向けて、学校部活動の地域連携および新たな地域クラブ活動への展開に向け継続的な取組を行う考え方を示している。

そこで、本町でも、地域の子どもたちを、学校を含めた地域で育てるという意識の下で、生徒の望ましい成長が保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すこととする。

その際、学校部活動の教育的意義や役割については、地域クラブ活動においても継承・発展させ、さらに、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値が創出されるよう、学校教育関係者等と必要な連携を図りつつ、発達段階やニーズに応じた多様な活動ができる環境を整えることが必要である。

1 部活動の意義および課題

(1) 学校部活動の意義

学校部活動は、生徒のスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、多様な学びの場として生徒の資質・能力の育成に資するものである。

また、学校教育の一環（教育課程外）として行われ、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、好ましい人間関係の構築を図ることや自己肯定感を高めたりするなど、大きな役割を果たしている。

なお、部活動の位置付けについては、学習指導要領において、次のように記述されている。

中学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省）第1章総則 第5の1のウ

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

(2) 学校部活動の現状

中学校の部活動を取り巻く状況は、近年大きく変化している。県内中学校における部の設置

数は減少傾向にあり、また、中学校体育連盟（以下、中体連）の大会において合同チームによる大会出場が増加している。

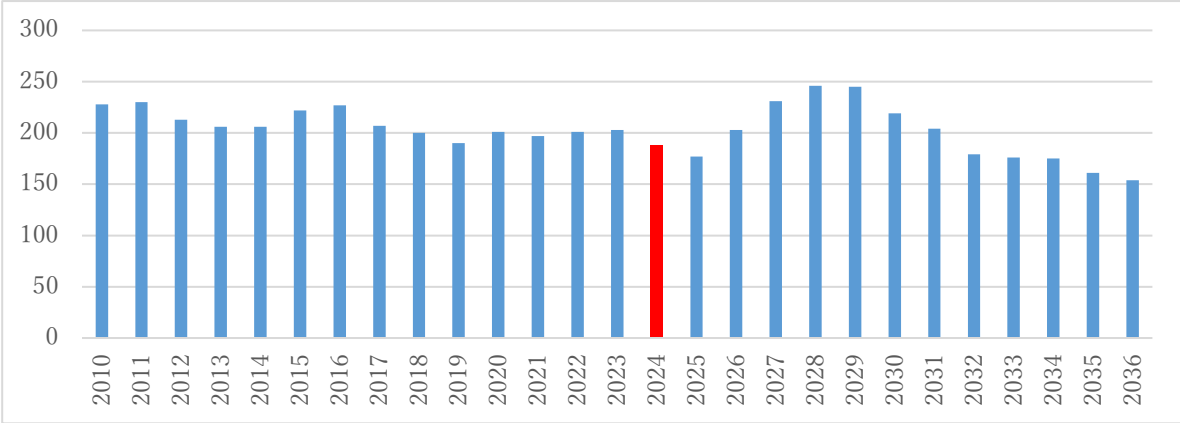
本町においても、中学生に対する調査によると、スポーツ・文化芸術活動に参加している生徒の割合は約 93%であり、様々なスポーツ・文化芸術活動に参加している。全校生徒の 76%が学校部活動に所属し、活動をしている。また、31%は地域スポーツ・文化芸術クラブにおいて活動している。中には、学校部活動に所属しながらも、地域クラブでも活動している生徒も 15%程度いる。つまり、学校部活動だけでなく校外の地域クラブで活動する生徒の割合は 30%を超え、その半数程度が学校部活動に所属しない状況になっている。このことは、生徒のスポーツ・文化芸術活動への参加率は高い状況を維持しているが、学校部活動の組織率を低下させ、集団スポーツのチーム編成を厳しいものにしている。令和 4 年度には多賀中学校においても軟式野球部や男子バレーボール部が部員不足により廃部となっている。

(3) 部活動に係る課題

ア 生徒数の推移の傾向

多賀中学校の生徒数は、近年の傾向を見ると全校生徒が 200 名前後で推移してきた。今後の中学校の生徒数を町内の年齢別人口を用いて予測すると、令和 6 年度の小学 2 年から 5 年の児童数が 70 名から 90 名と比較的人数の多い学年となっていることもあり、今後数年間は一時的な増加傾向を示している。しかし、それ以降は減少傾向にあり、12 年後には 150 名程度になることが予想される。

○ 多賀中学校生徒数の推移（予測を含む）



○ 年齢別人口（令和 6 年 4 月 1 日現在）

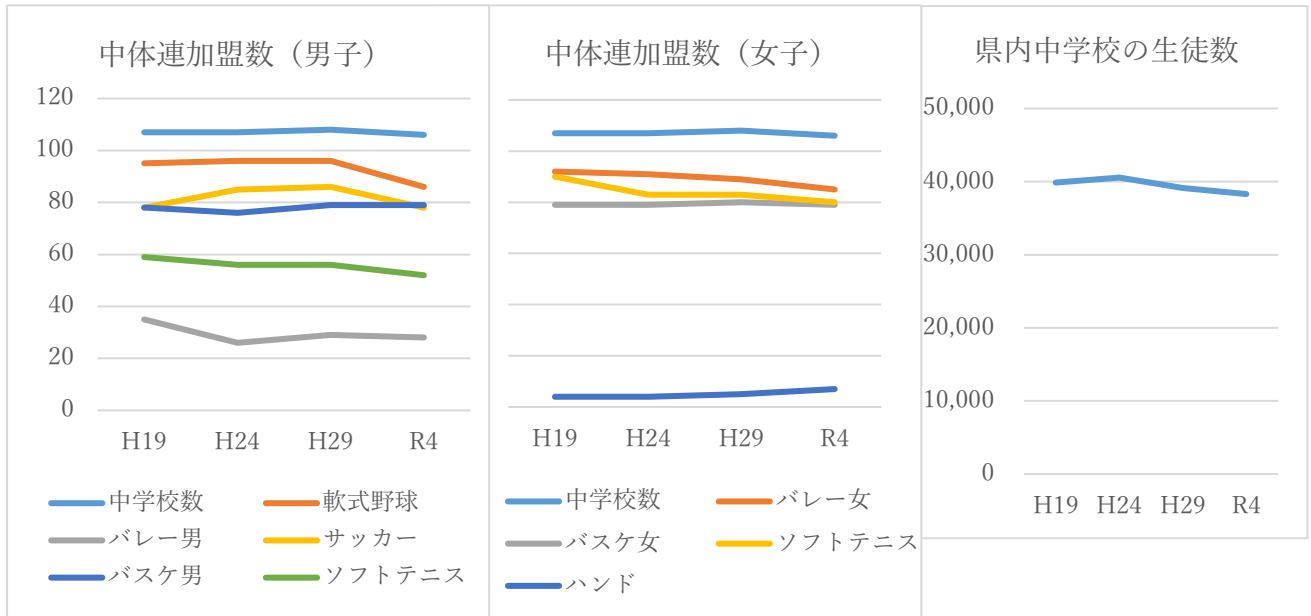
年齢	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
人数	68	65	55	57	91	83	72	90	57	57	65	54	56	51	47

イ 生徒ニーズの多様化

滋賀県中体連の競技別加盟校数を見ると、平成 29 年から大きく減少する傾向を示している。全県的に見ると生徒数は減少傾向であるものの、単独校でのチーム編成ができない学校のために、合同チームでの大会参加を認めるなどの救済措置が取られているにもかかわらず、それ以上に加盟校数は激減していることになる。本町が実施した中学生に対するスポーツ・文化芸術

活動に係るアンケート調査によると、ほとんどの生徒がスポーツ・文化芸術活動に参加しており、学校以外の場面での活動が想定される。軟式野球やサッカーの加盟校数の大幅な減少には、学校部活動にはない硬式野球チームやＪリーグ等のユースチームなどの場面でスポーツ・文化芸術活動に参加していることが考えられる。また、ダンス教室等へ参加する生徒もいることを考えると、生徒のスポーツ・文化芸術活動に対するニーズの多様性が想像できる。

○ 滋賀県の中体連の加盟校数及び滋賀県市町立中学校生徒数について、



ウ 教員の業務負担の過多

平成 31 年 1 月の中央教育審議会答申によると、「部活動の設置・運営は法令上の義務ではなく、学校の判断により実施しない場合もあり得る。実施する場合には学校の業務として行うこととなるが、一中略― 必ずしも教師が担う必要のない業務である。」と位置付けている。

また、「教師の中には、部活動にやりがいを感じている者もいる一方で、競技等の経験がなく部活動の指導に必要な技能を備えていない教師等が部活動の顧問を担わなければならない場合には負担を感じている。」とも答申されている。

そして、「教師が授業や授業準備等の教師でなければ担うことのできない業務に注力するためにも、質の高い部活動指導員の任用・配置を進めるとともに、地域における指導者の質の担保を行うなど、学校や地域住民と意識共有を図りつつ、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、環境を整えた上で、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである。」とも提言している。

本町のスポーツ・文化芸術活動に係るアンケート調査によると、半数以上の教員が部活動の指導にやりがいを感じている一方で、負担に感じている要素もある。また、部活動の地域移行についても肯定的な意見が多く、生徒が専門的な指導を受けられることや活動の選択肢が増えることに期待を示している。さらに、部活動の地域移行によって、教員自身にとっての本来業務である教科指導や生徒指導にエネルギーを注げることを期待している。

2 方針

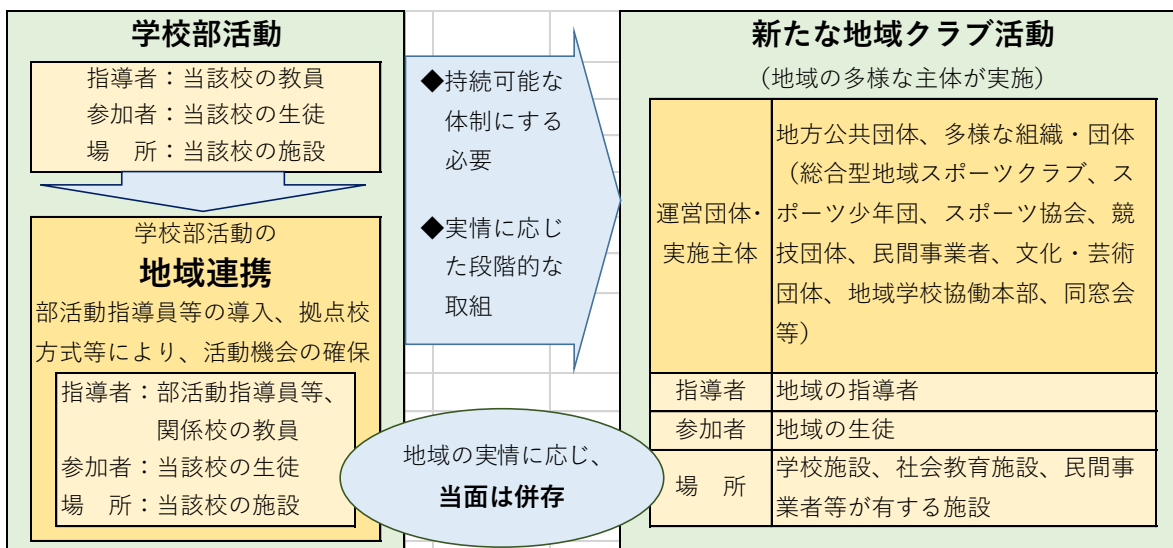
(1) 基本的な考え方

少子化の進展や生徒のニーズの多様化により、中学校の生徒数が減少することが予想されるとともに、学校部活動設置数の減少、学校部活動の加入率・加入数の減、指導者の不足、合同チーム出場数の増加、中体連主催大会（団体種目）への参加数減など、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、存続が厳しくなることが想定される。

学校部活動の教育的意義や役割を継承・発展させつつ、学校部活動から地域クラブ活動へ地域展開することにより、地域での多様な体験や地域の人との豊かな交流等を通じて、新しい価値が創出されることが期待できる。

このことを踏まえ、学校部活動の地域連携を進めながら持続可能な活動体制づくりを行うとともに、併せて休日の学校部活動から段階的に新たな地域クラブ活動への展開を進めていく。

令和5年度に設置した「多賀中学校の部活動のあり方および地域連携に係る検討協議会（以下、検討協議会）」で、地域展開の基本的な考え方や具体的な進め方等について協議を継続するとともに、関係者の共通理解の下、実情に応じてできるところから取組を推進していく。



(2) 目指す姿

将来にわたって子どもたちのスポーツや文化芸術活動に親しむ機会が、町や関係機関、スポーツ・文化芸術団体等との連携・協働のもと、地域の実情に合わせて確保されている環境を構築する。

(実現に向けて求められる要素)

- ①子どもたちが、少子化の中でも、スポーツ・文化芸術活動に親しむことのできるよう学校と地域が連携した持続可能な体制の整備〔体制づくり〕
- ②子どもたちの自主的・自発的な活動を支える指導体制の構築〔人づくり〕
- ③成長期にある子どもたちが、適切な休養日や活動時間の中で、学校内外の活動、および食事・休養・睡眠等時間のバランスの取れた生活を送ることができる環境づくり〔環境づくり〕

(3) 想定される地域連携・地域展開のパターン

現状の学校部活動を中心とした中学生のスポーツ・文化芸術活動を将来的に地域クラブ活動へ展開するに当たって、次の図のような手順での地域展開を推進していく。

生徒の活動の場	活動実施主体、指導者による区分	摘 要
A. 学校部活動	学校部活動（従来型）	従来どおりの生徒、教員による部活動 （人数確保のための合同チーム編成の場合を含む）
B. 学校部活動 （地域連携）	① 外部連携・支援型	部活動指導員や外部指導者等の外部人材を採用して 部活動をサポート
	② 拠点校、拠点施設型	拠点となる学校・施設を核に、合同または複数校生 徒が参加する部活動（他市町との連携）
C. 地域クラブ等活動 （まずは休日）	地域団体等運営・指導型	総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等による 運営、指導

A 学校部活動（従来型）

学校部活動は、学習指導要領に、「学校教育の一環として教育課程との関連が図られることが留意されること」とされ、教員が担い、その成果を上げてきた歴史がある。しかしながら、教育的意義を踏まえて実施されてきたが、従来型の指導は限界を超えつつある。

その中で、少子化等に対応すべく、個人スポーツの参加や集団スポーツの合同チームでの大会参加を認めてきた経緯がある。近隣の中学校との合同チームとしての大会参加や合同練習等による活動の充実もその1つの方策である。

一方で、従来型の学校部活動には問題等が含まれることから、課題に対して配慮した継続が望まれる。

B 学校部活動への支援

① 外部連携・支援型

生徒の活動環境の充実の観点からも、地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者の活用等により、保護者の理解と協力を得て、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ・文化芸術団体等の有する人材を活用するなどの環境整備を進める。

具体的には、地域の人材を学校部活動へ部活動指導員や外部指導者として活用することを推進していく。そのためには、地域指導者の発掘・募集や県の人材バンクの活用がある。

また、これまでの部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立っており、教員の部活動の負担軽減することにもつながり、有効な方法の1つといえる。

② 拠点校・拠点施設型

滋賀県中学校体育連盟では、在籍校に希望する部活動がない場合に、参加を希望する生徒を1つの学校が受け入れる「拠点校方式」という参加規程を設けている。運動部活動に参加したい生徒の救済措置として、関係教育委員会や当該中学校校長が承認することで、生徒にとっての活動の場が広がるのが可能になる。

特に、犬上郡の3町は、ほぼ同規模の自治体であり、同じような課題を抱えていることか

ら、合理的で効率的な部活動の推進を目指して「拠点校方式」等による合同部活動を推進する事業を各町教育委員会間での情報共有を元に連携を深め、実情に応じた形態を検討していく。

また、休日の練習等を共同で実施するなど、できるところから連携して活動する機会を増やしていく。その際、施設の利用においても、中学生の活動を支援するような支援のあり方を検討する。

C 休日の地域クラブ活動による活動保障

令和2年9月に、文部科学省は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を通知し、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動を望まない教師が休日の部活動に従事しないこと等が示された。

このことを受け、将来的には地域指導者と学校との連携を図りながら、地域の実情やニーズを踏まえて、生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保や、心身の健全な育成等につながるよう、地域のスポーツ・文化芸術団体、学校等の関係者の理解と協力の下、生徒の活動の場として、新たに地域クラブ活動を開催していく。

なお、当面は平日の学校部活動も存続しており、滑らかな地域展開を推進するためにも、学校部活動への地域からの支援を検討していく。

3 推進の具体的な方策

(1) 体制づくり

① 関係者による連携体制の構築

昨年度設置した学識経験者、保護者、スポーツ関係団体関係者、文化関係団体関係者、中学校、町関係部局関係者等からなる検討協議会において定期的・恒常的な情報共有・連絡調整を行い、緊密に連携をしていく。

また、学校教育関係者等と必要な連携を図りつつ、生徒の発達段階やニーズに応じた多様な活動ができる環境を整えるため、コーディネーターを置き、必要に応じて県や他市町との連絡調整を図る。

② 学校部活動の適切な運営、地域連携

生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術活動の環境を構築する観点から、県がガイドラインとして、地域連携や地域クラブ活動への移行の趣旨等を踏まえ改訂(令和5年3月)した「部活動の指導について」に基づき、持続可能な学校部活動の運営を図るために、学校部活動の適切な地域連携の取組を進めていく。部活動指導者や外部指導者の導入や近隣中学校との合同部活動や合同練習等の交流などに取り組んでいく。

③ 受け皿となる運営団体、実施主体の体制整備

受け皿として総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、クラブチーム、民間事業者、大学や郡市町スポーツ協会、文化芸術団体など多様な運営団体・実施主体を想定し、学校と連携し、教育的意義を継承した多様な活動に親しむ機会を確保できるようする。社会体育・教育施設や文化施設、運営団体・実施主体の保有する施設を利用して、中学校の生徒が参加しやすい体制を整えるために、町も関わりながら組織の強化や機能の充実を図る。

また、本町において取り組んでいる実証事業の成果や課題、他市町の現状や意向等の情報収集に努めるとともに、検討協議会の意見を参考にしつつ、関係者の共通理解の下、実情に応じできるところから取組を推進していく。

(2) 人づくり

生徒の適切な活動には、質・量ともに十分な指導者が不可欠であり、専門性や資質・能力の有する指導者を確保していくことが求められる。

① 教員等の兼職兼業

競技や指導の経験がない教員や指導を望まない教員がいる一方で、専門的な知識や技量、指導経験を活かして、子どもたちの指導を希望する者がおり、こうした教員が指導者として円滑に活躍できる環境が求められる。そのために、そのような教員の実態把握を図るとともに、地域クラブ活動等で指導を希望する教員等が、円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、規程や運用の改善を行う。

② 指導者の募集・発掘等による確保

生徒のニーズを踏まえた充実した活動につながるよう、中学校に部活動指導員や外部指導者などの教員以外の指導者を派遣したり、スポーツ・文化芸術団体等の協力を得ながら、指導者資格を有する等の一定要件を満たした地域の指導者を確保したりする。また、公募等による人材の発掘や町内在住の大学生に関わって、大学と連携し、指導者または指導者の補助として関わるができる体制を検討する。

県が集約した指導者情報(人材バンクシステム)を閲覧する方法等を周知することを通して、指導者を必要とする団体(学校・クラブ等)と指導が可能な者(コーチ)をマッチングできるよう情報提供を促進する。

③ 指導者の資質向上

スポーツ・文化芸術活動に関わる指導者に対し、子どもたちの主体性が促されるような指導等を学ぶ多様な研修会を設定し、資質向上に努めるための方策を他市町との連携を含め検討する。

また、日本スポーツ協会(J S P O)が定める公認スポーツ指導者制度等の周知を図るとともに、質の高い指導者の養成や資格取得を推進する。

運営団体・実施団体は、生徒の安全の確保や事故防止とともに、暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメント等の行為の根絶の徹底を図る。

(3) 環境づくり

① 健康面・安全面等への配慮

県は、将来にわたり生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会が確保されるとともに、部活動の地域連携や地域移行の趣旨を踏まえ、令和5年3月に「部活動の指導について(改訂版)」を策定し、健康安全面については次のような内容を定めている。

地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、生徒の健康や心身の成長に配慮し、活動時間は学校部活動に準じ、平日2時間程度、休業日3時間程度、週当たり2日以上、休養日(平日は少なくとも1日、週末は少なくとも1日以上)を設定するようにする。また、指導者、参加者に

対して、日本スポーツ振興センターの災害共済給付と同等の補償がある保険に加入をすることを推進し、怪我や事故が生じても適切な補償が受けられるようにする。さらに、指導者に暴言・暴力等の問題行動が見られた場合や生徒間で事故やトラブルがあった場合は、看過することなく対処し、公平・公正に対処する。

② 活動推進のための環境整備等

学校部活動においては、各部において部費等として、大会参加費や備品・用具の購入代金、競技団体等の登録料等に充てるため一定の金額を集めている。ただし、教師が指導を担っているため指導料が生じず、比較的低廉な額となっている。今後、地域クラブ活動の会費が必要となるが、学校の運動部活動の部費と比べて金額が上がるのが想定される。

そのため、学校の施設利用や、社会教育施設・文化施設等の低廉な使用料での利用など、利用しやすい環境について検討する。また、運営団体・実施主体は、会費について、活動の維持・運営に必要な範囲で検討し、生徒が地域クラブ活動に参加しやすい額となるよう留意する。

③ 経済的に困窮する家庭の生徒への支援

経済的に困窮する家庭においては、地域のスポーツ・文化芸術団体等への会費を支払うことが難しく、スポーツ・文化芸術活動に参加できないことも想定される。家庭の経済状況等にかかわらず、誰でもスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保することは重要な課題である。そこで、経済的に困窮する家庭の生徒のスポーツ活動を支援するため、こうした家庭に対する費用の補助や、地元企業からの寄附等による基金の創設などの取組を進めることが考えられる。